

# やまがた創生便り 第6号

2017.8.25

## 授業紹介



**地域体験型科目**  
「感じる山形～教科書の向こう側へ～」  
山形大学 学術研究院  
(地域教育文化学部担当)  
滝澤 匡

科目「感じる山形」では、山形の地域が持つ自然・文化・歴史・産業・まちづくりなどを現地での体験を通じて学びます。例えば、前期の「民話語り部体験」では、南陽の方言と豊かな表現力で語られる民話を語り部の方々に教えていただき、学生が実際に語りを行います。また、後期の「雪とともに生きる体験」では、尾花沢市で雪囲いや高齢者宅の除雪を行い、雪との生活のご苦労とそこから生まれた知恵と共助の精神を学びます。



循環型まちづくり体験(長井市)



地域のにぎわいづくり体験(山形市)



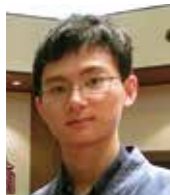
山形の森づくり体験(南陽市)

この科目では、学生が山形の地域の魅力にふれることをねらいとしています。一年次に山形の魅力にふれた学生が4年を通して様々な地域活動へ参加し、山形への興味・関心を醸成してくれることを期待しています。

また、社会で活躍するために必要な能力の向上もねらいです。実社会と同様に年齢や背景の異なる様々な人との集団活動により、協調性やチームワークなど組織で活動するためのコミュニケーション力を高めてくれることを期待しています。特に、現地講師の方々からご指導いただくなかで、年長者から積極的に学ぶ楽しさや自身の成長へ繋げる柔軟な姿勢を経験して欲しいと思います。

このような体験によって地域の魅力を知り能力を向上させた学生が、山形の次世代を担う存在として地域を支えてくれることを究極的な目標としています。

## 受講生の声



### 民話語り部体験を受講して

山形大学 理学部 理学科 1年  
大高拓海

民話語り部体験を受講し、通常の講義では経験できない様々なことを学ぶことができた。

まず、様々な民話を通じて南陽市について知ることができた。珍藏寺や蛙石、白竜湖など、民話との関係性や背景にある物語はこの講義を受講しなければ聞けない、とても貴重な話であった。

そして、「人から教わる」ことについても学ぶことができた。これまで学校外で初対面の年上の方から何かを教わる経験がなく、自分から積極的に学びに行くことができるか不安があったが、語り部の先生方がフレンドリーで丁寧に教えていただいたため、

リラックスして取り組むことができた。ご指導を受けるなかで、自分自身の成長のために何かを教わるならば、自分の中の考えを積極的に発信し、質問は相手が回答しやすいものを心がける必要があることを気づいた。

本講義で学んだことは、今後人と関わる際に役に立つようなことばかりであり、自分の今後の人生を助けてくれるように思える。

人と関わる時には人の話をちゃんと聞き、自分の中でかみ砕いて、それから自分の考えや質問をして、円滑な人間関係を築けるように努めたい。また、南陽市の様々な魅力を見つけたように自分のイメージに固執せずに、実際に色々なものを見て、積極的に新しい発見をするように努めたい。



民話語り部体験(南陽市)

### 【事業の連絡先】

山形大学 COC・COC+推進室	TEL : 023-695-6264, 6266
山形県立米沢栄養大学総務企画課	TEL : 0238-22-7330
鶴岡工業高等専門学校総務課	TEL : 0235-25-9453
東北公益文科大学庄内オフィス	TEL : 0234-41-1115
東北芸術工科大学法人企画室	TEL : 023-627-2089
東北文科大学運営企画室	TEL : 023-688-2298
米沢市総合政策課	TEL : 0238-22-5111 (内:2810)
鶴岡市政策企画課	TEL : 0235-25-2111 (内:525)

E-mail : cocuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
E-mail : jimuyone@yone.ac.jp
E-mail : kikaku@tsuruoka-nct.ac.jp
E-mail : coc-office@koeki-u.ac.jp
E-mail : c_o_c@aga.tuad.ac.jp
E-mail : soumu@t-bunkyo.ac.jp
E-mail : chiiki-t@city.yonezawa.yamagata.jp

## 事業の推進にあたり

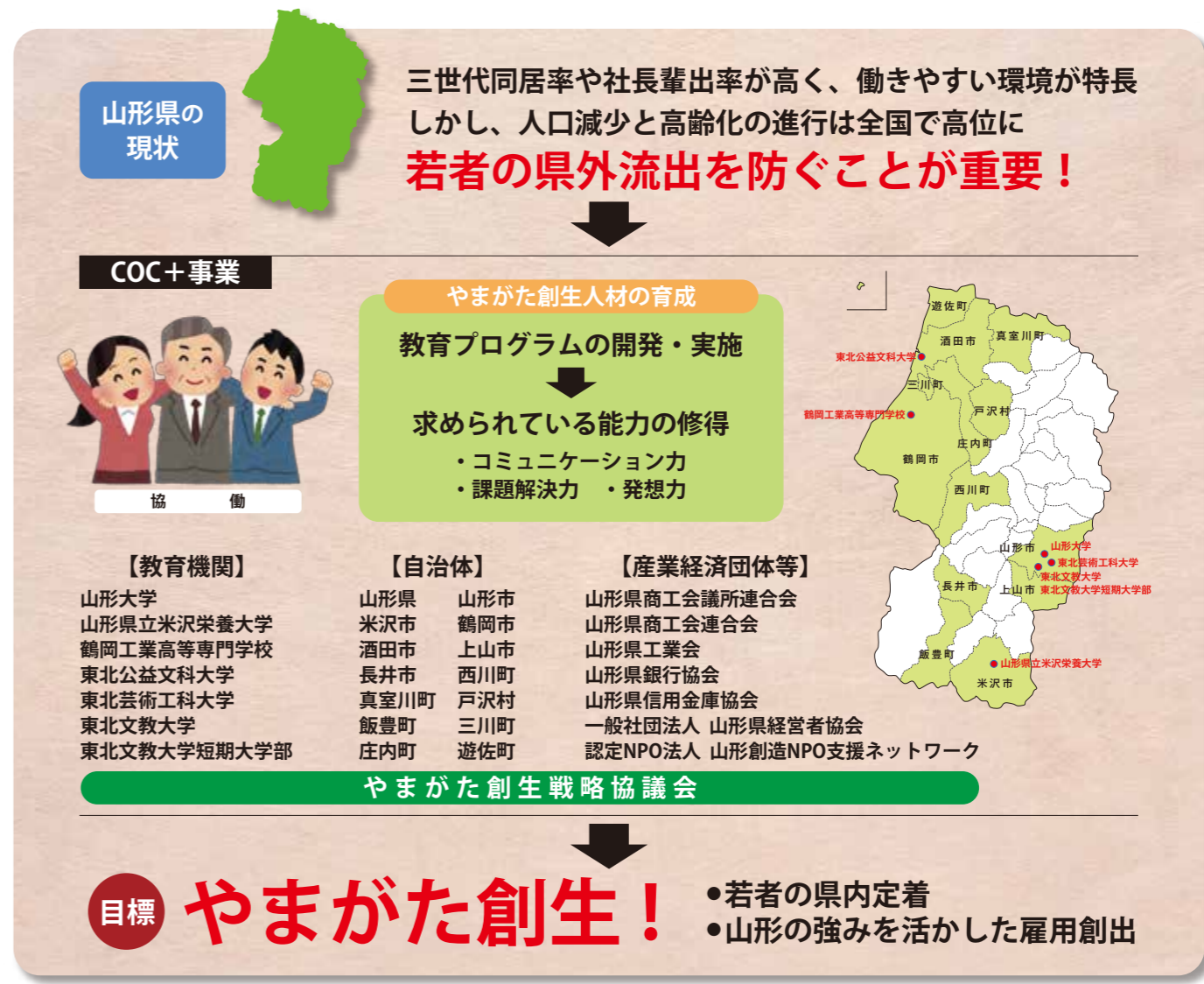
山形大学COC+推進室長(地域教育文化学部長) 出口毅



現在、日本は人口減少時代に入り、地方都市は今後大きな変化を迎えます。山形県は「三世帯同居率」や「社長輩出率」の高さなどにより、働きやすい環境が一つの長所ですが、その一方で、全国平均と比較して、人口減少と高齢化の進行が顕著となっています。これらの原因のひとつは、若者の県外への流出です。

山形県内の大学・高専は、自治体、産業経済団体等と連携したプロジェクト「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に取り組んでいます。各教育機関の教育・研究を通して、学生が県内企業や地域社会等の魅力にふれ、山形の将来を担う気概を醸成し、地域社会に貢献する能力を高めることを目的としています。

次世代のやまがたを創る本事業へのご理解とお力添えをお願いいたします。



# COC+参加大学等の取組



## 「社長インターンシップ」で地元就職を

東北公益文科大学では、学生が地元企業のトップに密着する「社長インターンシップ」に力を入れています。昨年度から、COC+の枠組みにおいて、県内他大学の学生も参加できるようになり、山形大学の学生が食品製造や食肉加工企業での「社長体験」をすでに開始しています。本プログラムを通じ、学生に地元企業の魅力を伝え、地元就職を促進していきます。



社長インターンシップ



## 山形の魅力を伝える学習で、地元定着を



戸沢村での地域学習

山形大学では地域志向科目「山形から考える」を必修とし、全ての一年生が受講しています。このような教育により、約7割を占める県外出身の学生に山形の魅力を伝え、将来の活躍の場として考えるきっかけを提供します。一方、県内出身の学生に対しても、地域を支える新たな視点を与え、山形の将来を担う気概を醸成します。その他、地域企業での実習や地域課題の解決を試みる学習も行い、学生の地元定着を促進していきます。



## 地域密着型グローバルエンジニアを!

鶴岡高専では就業経験学習であるCO-OP教育を実施しており、現在まで延べ95名の学生が参加しています。29年度夏季は県内16社の企業から受入申請があり、参加企業数も増加傾向にあります。実習先に就職した学生は6名おり、即戦力としての活躍と後輩達へのフィードバックが大いに期待されます。また、工場見学及び本校OB・OGと懇談ができる地域企業訪問研修も実施しており、今後も積極的に県内企業を知る行事を企画しています。



CO-OP教育 実習

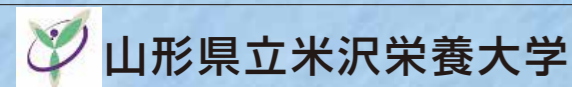


## 地域理解から課題解決力を身につけた人材を育成



想像力基礎ゼミナール

地域志向・地域連携の契機となり、課題解決力の基礎となる1年次必修科目「想像力基礎ゼミナール」を開講。地域社会の現状からその課題をテーマに設定し、解決策や完成形を提示するなどのプロセスを通して発想力を高めています。また、2年生以上では「地域プロジェクト演習」を開講し、地域課題改善策の提案や産業界と連携した新商品の開発・事業提案などを通して、地域の魅力を理解し地域の活性化に意欲をもった人材を育成、輩出していきます。



## 県民の健康で豊かな暮らしの実現を目指して

地域に根ざした大学として、また山形県の多彩で豊かな食材や食文化を健康の維持と増進に活用できる人材を育成するため「山形の食と健康」と「山形の歴史と文化」を1年次の選択必修科目としています。併せて、県内の多様な領域で活躍されているゲストスピーカーの招聘、臨地実習及び地域貢献活動等とおして、地域課題への取組み、地域で活躍する姿を涵養し、地域定着促進につなげています。



SATによる食事診断(地域貢献活動で利用)



## より身近に山形を感じる、フィールドワークの実施



山形新聞社でのフィールドワーク

本学では、様々なフィールドワークやインターンシップを通して、学生が県内への知識を深める機会を提供しています。具体的な内容としては、企業訪問による現場見学や、過疎地での地域社会および文化の学習などのフィールドワーク、各施設でのインターンシップに多くの学生が参加をしています。これらの活動を経て学生が将来県内で働くことのイメージを持つことで、県内定着率の向上に繋がっています。

